

2014年度 環境活動レポート

<対象期間：2014年10月 ～ 2015年9月>



株式会社 タムラ

【マツダオートザム鴨川】 【マツダオートザム館山】
【重機土木部】 【自動車リサイクル部】 【石油部】

2015年12月20日 発行

組織の概要

(1) 名称及び代表者名

株式会社 タムラ
代表取締役 田村 清孝

(2) 事業所の所在地

本社（登記住所） 千葉県鴨川市滑谷777番地
 マツダオートザム鴨川・修理部 千葉県鴨川市滑谷68番地1
 マツダオートザム館山 千葉県館山市高井800番地1
 重機土木部・重機修理部・钣金塗装部 千葉県鴨川市滑谷690番地2
 自動車リサイクル部 千葉県鴨川市坂東字八幡前370番地2
 石油部 千葉県鴨川市滑谷763番地1, 769番地

(3) 設立年・事業規模

設立年 1963年10月 1日
 資本金 1,000万円
 事業年度 10月～9月

売上総額 1,172百万円 2014/10～2015/09

	従業員数	延床面積	売上高 (百万円)	集計単位 名称
マツダオートザム鴨川	17名	290.6㎡	381	MAZ鴨川
株式会社タムラ 修理部		400.9㎡		
钣金塗装部		238.9㎡		
マツダオートザム館山	8名	419.0㎡	238	MAZ館山
重機・土木部	18名	1,284.9㎡	401	重機土木
重機修理部	3名			
自動車リサイクル部	8名	3,850.5㎡	62	リサイクル
石油部・ニコニコレンタカー	2名	626.1㎡	90	石油部

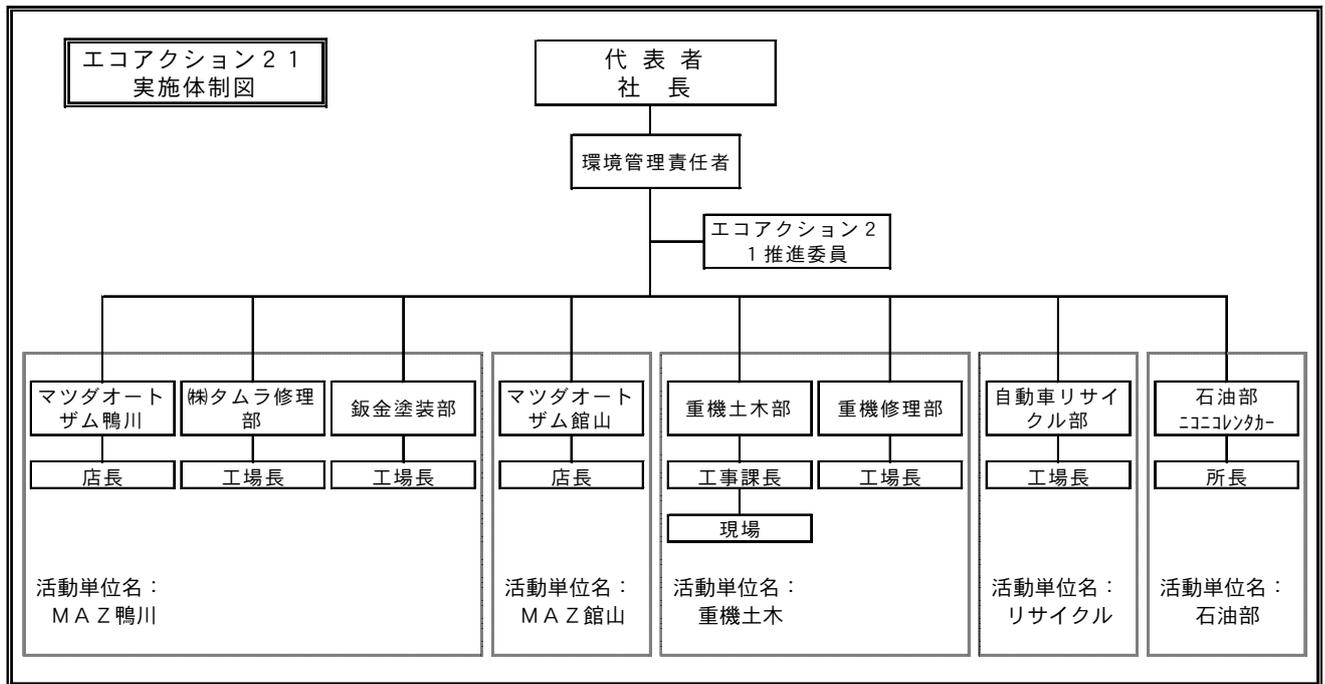
(4) 事業内容

自動車車検整備、一般修理、自動車钣金塗装、新車・中古車販売、保険代理店業務
 建設機械リース、建設機械点検修理、土木工事
 （千葉県知事許可（般-12）第34135号（土木工事業、とび土工工事業））
 自動車解体業及び自動車解体部品販売
 （自動車リサイクル 千葉県許可 解体業第20123001327号、破碎業第20124001327号）
 石油類販売、レンタカー

(5) 環境管理責任者及びエコアクション2.1推進委員

環境管理責任者
 マツダオートザム鴨川・修理部・钣金工場 総務 小原好一 TEL:04-7093-1121
 推進委員
 マツダオートザム館山 営業 平本勝秋 TEL:0470-24-0721
 推進委員
 重機・土木・重機修理 営業 佐野仁昭 TEL:04-7093-1127
 推進委員
 自動車リサイクル工場 工場長 荒井智之 TEL:04-7093-1315
 推進委員
 タムラ石油・ニコニコレンタカー 所長 笠井昭宏 TEL:04-7093-4295

■組織図とエコアクション21実施体制



■役割・責任・権限

代表者（社長）	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任 環境経営システムの実施に必要な『人、設備、費用、時間、技能、技術者』を準備 環境管理責任者を任命 環境方針の策定・見直し及び全従業員への周知 環境目標・環境活動計画書を承認 代表者による全体の評価と見直しを実施 環境活動レポートの承認
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理 環境関連法規等の取りまとめ表を承認 環境活動の取組結果を代表者へ報告 環境活動レポートの作成、公開 環境活動の実績集計 環境関連の外部コミュニケーションの窓口
エコアクション21 推進委員	<ul style="list-style-type: none"> 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 環境目標・環境活動計画書原案の作成 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 環境目標・環境活動計画書を確認 環境活動レポートの確認
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境方針の周知 自部門の従業員に対する環境訓練の実施 自部門に関連する環境活動計画の計画、実施及び達成状況の報告 特定された項目の手順書作成及び運用管理 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成 試行・訓練を実施、記録の作成 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動への参加

エコアクション2.1対象範囲

- ・事業者名 :
株式会社タムラ
- ・事業所所在地 :
千葉県鴨川市滑谷777番地
本社のほかの事業所は、「組織の概要」に記す。
- ・事業活動 :
新車・中古車販売、自動車車検整備、一般修理、自動車钣金塗装、保険代理店業務、
建設機械リース、建設機械点検修理、土木工事、自動車解体、
自動車解体部品販売、石油類販売及び自動車レンタル
- ・対象事業所 :
マツダオートザム鴨川・修理部、
マツダオートザム館山、重機土木部・重機修理部・钣金塗装部、自動車リサイクル部、
石油部
当社が取り組むエコアクション2.1環境活動は、当社の全組織・全活動・全従業員を対象と
しています。

レポートの対象期間及び発行日

- ・対象期間 :
2014年10月 ~ 2015年9月
- ・発行日 :
2015年12月20日

株式会社タムラは、全従業員が日々の企業活動である自動車販売、点検修理、建設重機リース、土木工事、自動車リサイクル、石油類販売、レンタカー、損害保険代理業等を行う中で、次世代に豊かな地球環境を引き継ぐことを目指し、自然と調和を図りながら地球環境の保護と豊かな社会づくりに貢献します。

1. 環境に関する法規制を遵守します。
2. 限りある資源を大切にし、また二酸化炭素排出量の削減のため節電や車両使用時にはエコ運転に努めます。
3. 循環型社会に向けて、廃棄物の削減・分別・再使用・再利用活動を推進します。
4. 水の使用量を把握し、上下・地下水の節水・排水量の削減に努めます。
5. 塗装や自動車整備に使用する化学物質の適正管理に努めます。
6. 低燃費・排出ガス車やリサイクル部品、エコオイルなど環境に配慮した製品の提供及びグリーン購入を推進します。
7. 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。
8. 全従業員に、この「環境方針」を周知徹底するとともに、環境活動レポートを作成し公表します。

制定日：2013年9月30日

代表取締役社長

田村 清孝

環境目標

(1) 環境負荷の現状

(2014年10月～2015年9月)

項目		使用量		排出量	
二酸化炭素排出量				652,541 kg-CO2	
	電力	123,360 kWh		65,504 kg-CO2	
	化石燃料	ガソリン		33,678 kg-CO2	
		軽油		546,634 kg-CO2	
		灯油		6,367 kg-CO2	
		液化石油ガス(LPG)		358 kg-CO2	
リサイクル車の	収集運搬量		1,033.0 t		
	中間処理量		945.0 t		
	うち再資源化量		755.5 t		
	中間処理後の産廃排出量		7.1 t		
	最終処分量		0.0 t		
廃棄物排出量				778.4 t	
		一般廃棄物量		3.7 t	
		うち再資源化量		0.0 t	
		うち廃棄物量(中間処理)		3.7 t	
		うち最終処分量		0.0 t	
		産業廃棄物量		774.7 t	
		うち再資源化量		755.5 t	
		うち廃棄物量(中間処理)		19.2 t	
		うち最終処分量		0.0 t	
水の排出量				2,557 m ³	
		上水由来		1,233 m ³	
		地下水由来		1,324 m ³	
化学物質使用量				204.9 kg	
		キシレン		36.2 kg	
		トルエン		138.6 kg	
		エチルベンゼン		15.9 kg	
		酢酸エチル		14.2 kg	

※一般廃棄物量、地下水の排出量については今後使用量の把握を行う。

※購入電力の排出係数については、国が公表する平成25年度の東京電力の実排出係数0.531を使用する。

(2) 環境目標 (全体)

項目		単位	基準年実績	年度目標		
				2014年度	2015年度	2016年度
二酸化炭素排出量		kg-CO2	546,846	527,160	546,846	546,846
		基準年比	(2012年度)	96%	100%	100%
電力		kWh	116,243	112,523	116,243	116,243
		基準年比	(2012年度)	97%	100%	100%
化石燃料	ガソリン	ℓ	19,557	18,892	18,970	18,775
		基準年比	(2012年度)	97%	97%	96%
	軽油	ℓ	165,139	159,524	165,139	165,139
		基準年比	(2012年度)	97%	100%	100%
	灯油	ℓ	2,545	2,458	2,443	2,430
		基準年比	(2012年度)	97%	96%	95.5%
廃棄物排出量						
一般廃棄物量	kg	1,872	1,793	1,872	1,872	
	基準年比	(2012年度)	96%	100%	100%	
産業廃棄物量	t	13.7	8.2	13.7	13.7	
	基準年比	(2012年度)	60%	100%	100%	
水の排出量		m ³	2,201.0	2,104.2	2,201.0	2,201.0
		基準年比	(2012年度)	96%	100%	100%
グリーン購入比率向上		%	53	53以上	53以上	53以上
		基準年比	(2013年度)	100%	100%	100%
本業に係る環境配慮						
MAZ鴨川	化学物質使用量の削減	kg	203.0	201.0	198.9	196.9
		基準年比	(2013年度)	99%	98%	97%
MAZ鴨川	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	50	50以上	50以上	50以上
		基準年比	(2013年度)	100%	100%	100%
MAZ館山	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	67	67以上	67以上	67以上
		基準年比	(2013年度)	100%	100%	100%
重機土木	建設機械の自主点検整備の実施率向上	%	-	96以上	97以上	98以上
		基準年比	-	-	-	-
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	1,012	1,042	1,052	1,062
		基準年比	(2012年度)	103%	104%	105%
石油部	スタンドヤードのごみ分別の実施率向上	%	-	96以上	97以上	98以上
		基準年比	-	-	-	-

※化学物質の排出量、移動量は適切に管理していることを、定期的に確認する。

※一般廃棄物量、地下水の排出量については今後使用量の把握を行う。

※購入電力の排出係数については、国が公表する平成25年度の東京電力の実排出係数0.531を使用する。

環境活動計画

◆ 二酸化炭素排出量の削減 電力使用量の削減

MAZ 鴨川	・空調温度を適切な温度設定にする。 ・照明、パソコン等の機器類の電源管理をする。 ・「緑のカーテン」で夏場の室温上昇を抑える。	・空調フィルターの定期清掃をする。
MAZ 館山	・店舗照明のゾーン、時間帯管理 ・エアコン温度設定の徹底	
重機土木部	・不要な電気のスイッチは切る。 ・パソコンの電源管理	・コンプレッサーの電源管理
リサイクル部	・パソコン、コピー機等のOA機器を省電力設定にする。 ・夏季における軽装、冬季における重ね着の工夫。 ・空気圧縮機の圧力。	・事務室、工事等の照明、不使用時の消灯。
石油部	・店舗照明の時間帯管理 ・エアコン温度の設定 夏季28℃より ・必要以上の電源を切る	(4月～10月 18:30～/11月～3月 16:00～)

燃料使用量の削減

MAZ 鴨川	・アイドリングストップを行う。 ・エコドライブを行う。	顧客先でのアイドリングストップの厳守 法定速度の遵守及び空ぶかしの禁止
MAZ 館山	・社用時エコドライブ実施 ・代車用事（対お客さま）	エコドライブのお願い。 返却時満タン返しをお願いします。
重機土木部	・現場移動時のエコ運転	・揚重作業中のアクセルワークの注意
リサイクル部	・アイドリングストップ等エコドライブの工夫	・使用済み車引取時の効率的ルート選択と段取り
石油部	・社用時のエコドライブ実施	・配達時、給油以外はエンジンを切る。

◆ 廃棄物排出量の削減

MAZ 鴨川	・紙類（機密文書・個人情報等）の適正処理の徹底。 ・紙の使用量の抑制 書類の簡素化・ペーパーレス化の推進	裏紙使用・両面印刷・両面コピーの推進
MAZ 館山	・紙類の再利用 ・一般ゴミの分別、圧縮廃棄 ・事務処理のペーパーレス推進	裏紙の使用/段ボールの再利用
重機土木部	・ごみの分別 ・コピー用紙の裏紙活用	・ごみの持ち込みをしない。
リサイクル部	・段ボールの再利用	他事業部の段ボールを梱包材として再利用する。
石油部	・紙類の再利用 ・一般ゴミの分別、圧縮廃棄 ・事務処理のペーパーレス推進	裏紙の使用/段ボールの再利用

◆ 水使用量の削減

全事業部	・地下水の使用量を把握する。 ・手元ノズル等を使用しこまめに節水する。 ・「節水ステッカー」を表示し注意を促す。	地下水ポンプに流量計を設置する。
------	--	------------------

◆ 化学物質使用量の削減

MAZ 鴨川	・使用量の把握	化学物質の適正な管理
--------	---------	------------

◆ グリーン購入の推進

全事業部	・事務用品、消耗品購入時は「エコマーク」を優先する。
------	----------------------------

◆ 製品及びサービスにおける環境配慮

MAZ 鴨川 MAZ 館山	・低燃費、低排出ガス車の販売増に努める。 SKYACTIV、アイドリングストップ車の販売比率を高める。 ・環境配慮型自動車保険の提案に努める。
------------------	---

※各事業部から発生する産業廃棄物のうち廃油・廃LLCは車両の点検整備結果として発生するため、削減目標と計画の策定は行わず適正保管と適正処理業者へ排出する。

廃プラスチック、廃金属等はリサイクル部へまとめて運搬し、中間処理後、再利用できない分を産業廃棄物として排出する。

※お客さま車両の洗車等に使用する地下水の使用量削減については、2013年11月設置の水量計で現状を把握する。

※一般廃棄物の排出量については、2014年8月から秤を使用して現状を把握する。

※再生可能エネルギーの太陽光発電をMAZ館山に設置し、東京電力に売電している。

※グリーン購入は、購入資材アイテム数に対するエコマークアイテムの比率で集計。

※低燃費・低排出ガス車登録比率は、車両販売数に対するアイドリングストップ・SKYACTIV搭載車の比率をいう。

環境目標の実績

(2014年10月～2015年9月)

集計単位	二酸化炭素 排出量 kg-CO2	電力 kWh	ガソリン ℓ	軽油 ℓ	灯油 ℓ	廃棄物排出量		水の 使用量 m ³	グリーン購入 実施率 %	
						一般 kg	産廃 t			
全体	基準	546,846	116,243	19,557	165,139	2,545	1,872	13.7	2,201	53%
	目標	527,160	112,523	18,892	159,524	2,458	1,793	8.2	2,104	53%以上
	実績	652,175	123,359	14,506	208,294	2,555	3,516	19.2	2,558	66%
	増減率	124%	110%	77%	131%	104%	196%	233%	122%	124%
	評価	×	×	○	×	×	×	×	×	○
MAZ 鴨川	基準	57,841	41,122	9,719	4,111	1,065	1,872	8.1	809.7	66%
	目標	55,528	39,477	9,330	3,946	1,022	1,793	8.1	761.1	50%
	実績	39,422	34,153	4,506	2,564	1,644	1,037	8.2	363.3	79%
	増減率	71%	87%	48%	65%	161%	58%	101%	48%	158%
	評価	○	○	○	○	×	○	×	○	○
MAZ 館山	基準	23,689	26,454	3,392	197	501	-	4.2	621.3	70%
	目標	23,215	25,925	3,325	193	491	-	4.2	596.4	70%
	実績	23,512	26,121	3,502	576	0	588	3.6	682.4	56%
	増減率	101%	101%	105%	298%	0%	-	85%	114%	80%
	評価	×	×	×	×	○	-	○	×	○
重機 土木	基準	405,115	21,590	5,375	145,247	0	16	0.0	278.0	70%
	目標	384,859	21,158	5,160	139,437	0	0	0.0	261.3	50%
	実績	517,475	36,035	5,830	184,737	0	1,486	0.0	887.0	61%
	増減率	134%	170%	113%	132%	-	-	-	339%	122%
	評価	×	×	×	×	-	-	-	×	○
リサ イクル	基準	44,473	6,518	45	14,347	80	-	0.0	132.0	64%
	目標	42,249	6,257	43	13,629	76	-	0.0	128.0	20%
	実績	55,616	8,711	0	19,354	80	193	7.1	217.0	78%
	増減率	132%	139%	0%	142%	105%	-	-	169%	389%
	評価	×	×	○	×	×	-	-	×	○
石油 部	基準	18,786	20,559	1,025	1,238	899	0	1.4	348.0	64%
	目標	18,410	19,737	1,005	1,213	881	0	1.4	337.6	50%
	実績	16,149	18,339	668	1,063	831	212	0.3	408.0	100%
	増減率	88%	93%	66%	88%	94%	-	21%	121%	200%
	評価	○	○	○	○	○	-	○	×	○

集計単位	項目	単位	基準年実績	年度目標	実績	評価
MAZ鴨川	化学物質使用量の削減	%	203.0	201.0	204.9	×
		基準年比	-	99%	102%	
MAZ館山	低燃費・低排出ガス車登録比率向上	%	67	67以上	88%	○
		基準年比 (2013年度)	-	100%	176%	
重機土木	建設機械の自主点検整備の実施率向上	%	-	96%	100%	○
		基準年比	-	-	-	
リサイクル	解体のための入庫台数の増加促進	台	1,012	1,042	1,033	○
		基準年比	-	103%	99%	
石油部	スタンダードのごみ分別の実施率向上	%	-	96%	100%	○
		基準年比	-	-	-	

(1) 全体（組織全体）

2012年度にE A 2 1への取組に着手したが、自動車整備業、石油類販売及び自動車解体業、E A 2 1では、業種別ガイドラインのある建設業をも含む事業を営んでいることとサイトも5か所に亘っていることもあって歩調が合わず、当初、2013年度の活動実績で認証取得をと取り組んできたが、1年先送りして認証取得をすることにした。

環境負荷の自己チェックを行う前は、環境負荷の最も大きいのは電力使用に由来する二酸化炭素排出と予想していたが、建設機械に使用する軽油に由来する二酸化炭素排出量が圧倒的に多く、電力由来のものは全体の11～13%であることが分かった。

2014年度は、建設工事関連の受注量が多かったことによる軽油の使用量が多く、エコドライブなどでガソリン使用量を抑制したものの二酸化炭素排出量の抑制には焼け石に水であった。

今後は建設工事での二酸化炭素排出抑制のための原単位評価を検討したいものである。

また廃棄物排出量削減及び水の使用量削減については、目標を大きく未達成となったが、目標値設定の基準値が妥当でなかったことも考えられる。

2014年度以降に向けて、基準値の妥当性が現状では不明確であるので、電力使用量、化石燃料使用量、廃棄物排出量、水の使用量の年度目標を変更したい。

(2) M A Z 鴨川

M A Z 鴨川は、二酸化炭素の排出量は、組織全体の約10%と少ないが、2014年度は売上高が伸長したにも関わらず、産業廃棄物の排出、化学物質使用量及び灯油の使用以外はいずれの削減項目も目標を達成し、活動が功を奏したものと思われる。

本来業務の低燃費・低排出ガス車登録比率向上についても、積極的に活動したことで、目標を達成できた。今後さらに目標及び基準値を見直し、さらに具体的活動を活発にしていく。

(3) M A Z 館山

M A Z 館山は、二酸化炭素の排出量にしてM A Z 鴨川の約半分であるが、電力、化石燃料の使用共に削減目標に達しなかった。とくに軽油の使用量は修理車両を钣金工場に回送する台数によるが目標を大きく上回った。環境負荷割合の大きい電力については、夕方や夜間の照明に工夫をしていく。また水の使用量削減は目標未達であり、手元ノズルの上手な使用による節水を工夫していく。

本来業務の低燃費・低排出ガス車登録比率向上についても、積極的に活動したことで、目標を達成できた。今後さらに目標及び基準値を見直し、さらに具体的活動を活発にしていく。

(4) 重機・土木部

2014年度の重機・土木部の受注が活発であったため、軽油使用量が増えたことと電力使用量が増えて二酸化炭素排出量が目標オーバーとなった。

事業に使用する車両では、走行距離計がありそれによって燃費を測定し、建設機械では時間計の使用による稼働時間あたりの燃費を測定するなどして、燃料の総使用量のみならず原単位管理もこれから検討したい。建設機械の燃費は、その整備状態によるが、本来業務の環境目標として、「建設機械の自主点検整備の実施」をあげて徹底しているが、さらなる取り組みをしたい。

(5) リサイクル部

自動車解体による事業では、二酸化炭素の排出源は、軽油使用によるところが大きいことが分かった。これは解体車両の引取輸送用と解体機によることが明確であり、その作業量あたりの燃料原単位の改善を図っていききたい。また水の使用も大きく目標を超えているので、さらなる改善を加えていききたい。

本来業務の再資源化率の向上については、2014年度の自動車リサイクルの再資源化率は99.1%であり、高水準であることを確認し、今後も維持していききたい。

(6) 石油部

石油部のガソリンスタンド事業では、二酸化炭素排出量が組織全体の中で最も少なく、それらは圧倒的に電力使用し由来するものであることが明確になった。2014年度は目標を達成しているものの、今後は節電のために夕方、夜間の照明の節電に工夫を加えていきたい。

本来業務の取組テーマは、スタンドヤードのごみの回収分別を行っているが、次年度もさらなる徹底を図っていきたい。

環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反訴訟の有無

(1) 環境関連法規等の遵守状況の評価

法規制等の名称	要求事項	担当部署	評価
廃棄物の処理及び清掃に関する法律 (廃棄物処理法)	<ul style="list-style-type: none"> 一般廃棄物収集業者の許可証確認 産廃収集運搬・処理業者との契約、許可証確認 マニフェストの交付、管理 産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出 自社による運搬時の表示、書類携行 	全事業場	○
使用済み自動車の再資源化等に関する法律 (自動車リサイクル法)	<ul style="list-style-type: none"> 使用済み自動車の引取・フロン類回収・解体・破砕業者登録及び許可／登録／更新 	リサイクル部	○
	<ul style="list-style-type: none"> 再資源化預託金(自動車リサイクル料金)の預託有無の確認と、預託金の徴収 	MAZ 鴨川・MAZ 館山・リサイクル部	○
	<ul style="list-style-type: none"> 各工程移動時、移動報告の実施(電子マニフェストの管理) 	リサイクル部	○
道路運送車両法	<ul style="list-style-type: none"> 道路運送車両の保安基準 道路運送車両の点検及び整備 道路運転車両の検査等 	MAZ 鴨川・MAZ 館山・重機土木部	○
自動車から排出される窒素酸化物及び粒子状物質の特定地域における総量削減等に関する特別措置法 (自動車NOx・PM法)	<ul style="list-style-type: none"> 規制対象地域内の適合車による運行 規制対象特定地域への対象車両通行禁止 対象自動車を使用する事業者による計画の作成、定期の報告 周辺地域内自動車を使用する事業者による計画の作成、定期の報告 	全事業場	○
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律 (PRT法)	<ul style="list-style-type: none"> 第1種指定化学物質の排出量、移動量の記録 年間総排出量、移動量が1,000kg以上あれば報告 	MAZ 鴨川・MAZ 館山・重機土木部	○
浄化槽法	<ul style="list-style-type: none"> 公共用水域等の水質保全等の観点から、浄化槽の設置、保守点検、清掃を行う。 	全事業場	○
騒音規制法	<ul style="list-style-type: none"> 指定地域における時間帯別騒音レベルの遵守 	全事業場	○
振動規制法	<ul style="list-style-type: none"> 指定地域における時間帯別振動レベルの遵守 	全事業場	○
水質汚濁防止法	<ul style="list-style-type: none"> 排水濃度の測定・記録 事故時の措置届出 	全事業場	○
大気汚染防止法	<ul style="list-style-type: none"> 低排出ガス車の運用と販売 	全事業場	○
特定特種自動車排出ガスの規制等に関する法律 (オフロード法)	<ul style="list-style-type: none"> 適正な燃料の使用 急発進・急加速・急操作の排除 不要な空ぶかしの禁止 停止の際のアイドリングストップ励行 	重機土木部・リサイクル部	○
フロン排出抑制法	<ul style="list-style-type: none"> 第一種特定製品の管理者の義務 第一種特定製品の点検実施 	全事業場	○
消防法	<ul style="list-style-type: none"> 危険物保管の指定数量以上の許可申請 危険物保管の指定数量以上の危険物取扱者の届出 	全事業場	○
グリーン調達基準	<ul style="list-style-type: none"> 自治体、元請けのグリーン調達基準 	全事業場	○

(2) 違反・訴訟の有無

過去3年間以上、環境関連法規等の違反はなく、訴訟および関係機関からの指摘も受けていない。

代表者による評価・見直し

1. 環境活動の評価

エコアクション21を始めて2年目であるが、社員の意識も変化している。

しかし、仕事内容が多岐に亘り、なかなか電力使用量・水の使用量・燃料消費量等削減が難しく、バランスよく減らすのに苦労している。

・電力使用量については、MAZ館山のサービス工場屋上に太陽光パネルを設置し再生可能エネルギーへの取り組みも始めた。しかし、重機・土木部の受注増加や、リサイクル部の事務所新築による電気使用量増加や、警備用監視カメラの24時間稼働等で全体で未達成となっている。

・燃料消費量については、MAZ館山で钣金修理車両増による搬送回数増加や、重機・土木部で受注増加による、重機での使用量が増加した。

そして、リサイクル部は解体車両の引き取り台数の増加とそれに伴う解体機の作業量が増加し未達成となってしまった。

・水の使用量については、全社員が努力したが、重機・土木部の受注増による使用量が増えたため未達成となってしまった。

2. 今後の対応

二酸化炭素排出量が最も多い建設機械に使用する軽油の基準値の妥当性が現状では不明確である。電力使用量・化石燃料使用量・水の使用量を含め今後の目標値の検討を行い結果に結びつくよう、活動を活発にしていく。

以上

環境保全活動のご紹介

MAZ 鴨川

夏場、ショールーム西側ウィンドウに「緑のカーテン」を設置。
西日による室温上昇を抑えて、空調による電気使用量を抑制。



一般廃棄物は分別回収しています。

会社周辺の清掃活動（地域のゴミゼロ運動に協力）しています。



リサイクル部



使用済み車から取外した、中古部品の美化作業。
洗浄の水はバケツに必要量だけ汲んで使っています。

リサイクル部

解体作業場からの排水（おもに雨水）に混入した廃油と水を分離し場外への排水をキレイにする装置を導入。
（グリスバキューム（浮上油自動回収機）

株式会社丸八製

「環境省 環境技術実証モデル事業

実証番号 020-0402）

製品のホームページ：

<http://www.maru-hachi.co.jp/works/haisui/index.html>



重機土木部



移動式のゴミかご

スタッフが廃パレットを再利用して作ってくれました。

内側には「鴨川市 燃えないゴミ袋 25ℓ」装着。

背面には、箒と塵取り用トレイ。

底面には、キャスターがついて作業場所まで運べます。

重機土木部・重機修理部・钣金塗装部・自動車リサイクル部の合同で、会社周辺の清掃活動（地域のゴミゼロ運動に協力）しています。





ショールーム照明スイッチをレイアウト表示して、来客時・時間・外部の明るさで照明をオンオフ。



お客様にも節電をお願いしています。



受付フロントに「エコドライブ」のチラシを置いて、お客様にも省燃費運転をお願いしています。

(協力：エコドライブ普及推進協議会)



お客様がご利用になる工場代車にも「エコドライブ」のチラシを置いて、省燃費運転をお願いしています。

(協力：エコドライブ普及推進協議会)



ご入庫いただいたお車は洗車してお返しします。手元ノズルを使って節水洗車しています。



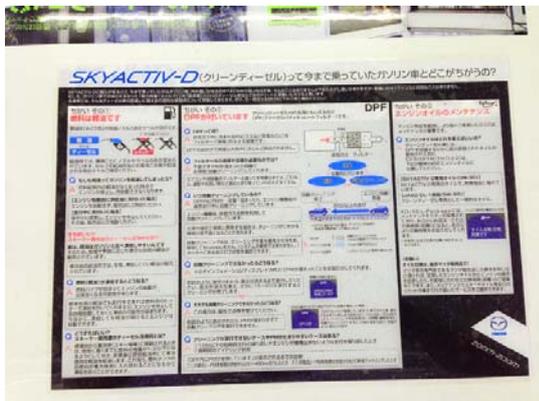
お客様にも節水をお願いしています。



一般廃棄物は分別回収しています。
ペットボトル、缶類は圧縮廃棄します、
ペットボトルのキャップはまとめて南房総市の「エコキャップ運動」に協力しています。



整備で発生した廃棄物は、まとめてリサイクル部に運んで処分しています。



環境に配慮したマツダ スカイアクティブ搭載車の販売に取り組んでいます。



自動車保険も環境に配慮した保険商品の販売に取り組んでいます。

石油部



夏場のエアコン温度 28℃ に設定しています。



レンタカー利用者に「エコドライブ」をお願いしています。

(協力：エコドライブ普及推進協議会)

再生可能エネルギーへの取組 (MAZ 館山)

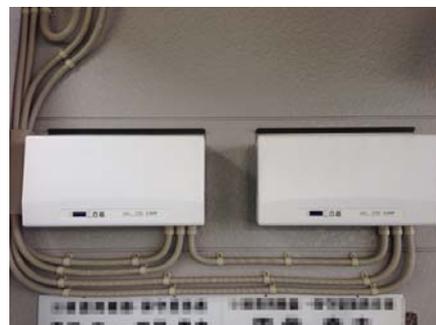
太陽光発電



太陽光発電パネル



発電状況モニター



パワーコンディショナー

MAZ 館山サービス工場の屋上に太陽光パネルを設置し発電しています。
発生した電力は東京電力へ売電しています。

環境負荷の現状把握のための取組



地下水ポンプに水量計を取付、地下水の使用量を計量しています。

MAZ 鴨川、MAZ 館山、重機土木部、石油部
(2013 年 11 月～)



デジタル秤を導入して、一般ゴミの排出量を軽量しています。

全事業部 (2014 年 8 月～)

自動車解体事業の概要

1. 自動車リサイクル法にもとづく解体業の許可の内容

解体業 許可番号：第 20123001327 号（千葉県知事）

許可年月日：平成 23 年 4 月 18 日

許可に有効年月日：平成 28 年 4 月 17 日

破砕業 許可番号：第 20124001327 号（千葉県知事）

許可年月日：平成 23 年 4 月 18 日

許可に有効年月日：平成 28 年 4 月 17 日

事業計画の概要：使用済み自動車を引取り、フロン類を回収し、解体後、破砕処理をすることによって、再資源化を行う。

事業の区分：使用済み自動車の引取り、フロン類回収、解体、破砕

引取り業者登録番号：20121001327

登録年月日：平成 23 年 4 月 18 日

登録有効年月日：平成 28 年 4 月 17 日

フロン類回収業者登録番号：20122001327

登録年月日：平成 23 年 4 月 18 日

登録有効年月日：平成 28 年 4 月 17 日

2. 施設の状況

運搬車両の種類と台数

積載車：4 t 2 台

積載車：6 t 1 台

平ボディ：4 t 1 台

使用済み自動車保管場所：面積 1,892m² 230 台分

処理施設の種類：破砕機 32.0t/日 1 台

処理する廃棄物：使用済み自動車

処理施設の能力（概略）：10 台

処理方式：連続方式

処理工程図：次ページに示す

処理工程図

